

今日のみことば

□ 2月19日(日) 使徒言行録 28章

パウロは、ロマに行かれた。2年間、囚人としてつながれていた。囚人になってからさえ、パウロはあらゆる機会を用いて福音を宣べ伝えた。

□ 2月20日(月) ロマ 1章

この手紙はキリスト教の救いの福音が系統的に書かれている。パウロは福音を①福音は神からのもの、②あらかじめ約束されたもの、③御子をその内容とするものと説明する。

□ 2月21日(火) ロマ 2章

人類の罪悪についてのパウロの恐るべき表現は、神ご自身の民であるユダヤ人も含まれます。それは彼らも人類に共通な罪悪の大部分を犯しているからです。

□ 2月22日(水) ロマ 3章

ユダヤ人は他の人々より優れているか。そうではない。すべての人は罪に捕らわれている。律法は人に罪の責任を求めるが人を神の前に義とする力はない。

□ 2月23日(木) ロマ 4章

三章において信仰義認の教理が述べられ、この章では、その実証として旧約のアブラハムがあげられている。アブラハムが義とされたのは、全く信仰だけによるのである。

□ 2月24日(金) ロマ 5章

イエス・キリストを信じる信仰によって、私たちは神との正しい関係を回復しました。これは正しい関係の回復のとどまらないで、それによって真実の平安と希望を与えてくれる。

□ 2月25日(土) ロマ 6章

私たちはキリストと一つになることによって罪から自由となり、新しいいのちに生きることが出来る。パウロはそれをバプテスマのたとえと、奴隷のたとえを使って説明する。

ろま No. 1803
2017年 2月19日
日本バプテスト立川キリスト教会
牧師 大川 博之

エペソ6:17

また、救いを兜としてかぶり、
霊の剣、すなわち神の
言葉をとりなさい。

モーセが死んで、ヨシュアが後継者として立てられたとき、神はヨシュアに「一生の間、あなたの行く手に立ちはだかる者はないであらう。わたしはモーセと共にいたように、あなたと共にいる。あなたを見放すことも、見捨てることもない。強く、雄々しくあれ。この律法の書をあなたの口から離すことなく、昼も夜も口ずさみ、そこに書かれていることを忠実に守りなさい」(ヨシュア1:1-9)と言われました。有り体に言えば、ヨシュアによってカナンでのイスラエル建国がなされたのです。神が約束を守られ、ヨシュアが約束を守って、出エジプト以来の苦悩に満ちた旅は終わりました。

神はモーセを通して、神の民が守るべき大切な戒めを与えられてこれを忠実に、自分たちはもちろんのこと、子々孫々に至るまでしっかりとこれを継承すべきことを命じられました(申命6:4-9)。彼らはその掟をしっかりと継承して来たと言えるか。私たちはヨシュアの後継者たちの歩みに目を向けさせていただくのです。そこには悪魔のと大きな戦いの連続でした。

詩篇の第一篇は、そのような私たちに、同様にいかに主のみ言葉に生きる人が幸いであるかと伝えてくれるのです。「いかに幸いなことか／神に逆らう者の計らいに従って歩まず／罪ある者の道にとどまらず／傲慢な者と共に座らず／主の教えを愛し／その教えを昼も夜も口ずさむ人。」と歌いました。そこに

私たちは「その教えを昼も夜も口ずさむ人」の姿を見させていただくのです。この「天にいる悪の諸霊」との戦いにおいて勝利を収めるのは「主に依り頼み、その偉大な力によって強く」された主の精兵です。

私たちは主がいかに悪魔と対峙されて、それを退けられたかその事例を、公生涯を始められる前に、荒野での試練の出来事の中で聞かせていただいています。実に痛快な光景を私たちは見ることですが、それだけではありません。主がいかにみ言葉に生きておいでになったかを、私たちは知ることになるのです。このイエスの姿を、私たちへの一つの事例でしょうが、今日の時代の中で、私たちはしっかりとそれを噛みしめさせていただかねばなりません。

今映画「沈黙」が上映されています。これは遠藤周作の小説「沈黙」が土台ですが、江戸時代のキリシタンが、どのような迫害の中でも、主に生き抜いた物語です。神様がどのようにこの出来事に関わって下さったか。キリシタンがどのようにしっかりと受け止めてきていたか。その信仰にしっかりと心を凝らさせていただくのです。パウロはこの悪霊との戦いに、神の武具をとれと言いました。そしてしっかりとその戦いで勝利を得る秘訣は「神の言葉を取れ」というのです。どのような勝利の喜びを味わうことが出来るのでしょうか。パウロは「わたしのために祈ってほしい」と言いました。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
コロサイ3:17-21 家族のため意キリストに生きる

私たちは「家族伝道」を祈りの課題にしてきました。このことは私たちの切なる祈りです。パウロとシラスが獄中で出会ったすてきな出来事で「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」と言われた言葉、そして獄吏の家族が救われた喜びの出来事は、うらやましい限りの出来事です。

コロサイ教会の人たちに、パウロはこの喜びの出来事が彼らのものでもあるようにと祈りを込めて勧めました。「何を話すにせよ、行うにせよ、すべてを主イエスの名によって行い、イエスによって、父である神に感謝しなさい」と言いました。夫婦に対しての勧め、親子に対しての勧め、主従に対しての勧めのうちに、明確にその思いが告げられています。私たちのうちにどのように行動するにしても、一つ欠けたものがある、と言われるのではありませんか。



Read God's Word.

次週の聖書・説教	エペソ 6:18-20 いつも霊によって祈れ
----------	------------------------